

日本映画上映祭の開催

2025年2月21日と22日、ヴァタン映画館において、「タジクフィルム」の協力を得て。在タジキスタン日本大使館主催による映画上映祭が開催されました。



開会式における古田恵子大使とマフムサイード・ショヒン「トジクフィルム」社長による挨拶の中では、映画上映が両国民の文化交流と相互理解促進、日本の歴史と文化的多様性を紹介するプラットフォームとなり得ると述べられました。



映画祭で上映されたのは3本の長編映画で、1日目には、日本の墨絵技法がテーマの「線は、僕を描く」（2022年、小泉徳宏 監督）が上映されました。この映画の前には、西川直子一等書記官より「墨絵」についてのミニレクチャーが行われました。



2日目には、日本の家族の伝統的価値観がテーマの「高野豆腐店の春」（2023年、三原光尋監督）と「四月の永い夢」（2016年、中川龍太郎監督）の2本が上映されました。

2日間で300人以上が来場し、日本語（ロシア語字幕）での映画を通して日本の文化について知る機会を得ました。

アンケート回答では、行事のレベルが高く印象深かった、素晴らしく感動する行事だった、日本の文化と伝統についての理解が深まったというコメントがありました。多くの来場者から、日本の映画を大画面で観るという貴重な機会が得られたことに対する感謝の声が聞かれました。来場者の感想の中には、映画のビジュアルの美しさに対する賞賛、人生や人間の価値についての深い洞察もありました。また、映画を通して日本の芸術や哲学について新たに知ることができたというコメント、日本文化の美しさや独自性を知ることができたといったコメントもありました。



今回の日本映画上映祭は、両国民の友好関係を強化する良い文化行事となりました。

このような行事は、豊かな彩を持つ日本文化に触れる貴重な機会を提供することによって、文化交流と相互理解の促進に繋がります。